

# システム管理設定の管理

この章は、次の内容で構成されています。

- 送信メール サーバの設定, 1 ページ
- ・ 電子メール テンプレートの使用, 2 ページ
- ・ システム パラメータの設定(任意), 5 ページ
- ライセンスの更新、7 ページ
- ・ ライセンス使用率の確認、8 ページ
- ・ ライセンス使用率履歴の表示、8 ページ
- リソース使用率データの表示, 9 ページ
- アプリケーション カテゴリの編集, 9 ページ
- ポータルのカスタマイズ, 10 ページ
- レポートのカスタマイズ, 14 ページ
- 高度な制御, 15 ページ
- ・ ユーザメニュー、16 ページ
- ユーザ権限の設定。17 ページ
- ・ システム タスクの管理, 17 ページ
- アイコンの管理、22 ページ
- サポート情報、25 ページ

# 送信メール サーバの設定

Cisco UCS Director から送信されるすべての電子メールで、SMTP サーバが必要です。

### 手順

ステップ1 メニューバーで、[管理]>[システム]の順に選択します。

ステップ2 [電子メール設定] タブを選択します。

ステップ3 [電子メール設定]ペインで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[送信電子メールサーバ (SMTP)] フィールド	送信 SMTP サーバのアドレス。
[送信SMTPポート] フィールド	送信 SMTP サーバ ポートの番号。
[送信SMTPユーザ] フィールド	ユーザ ID。
[送信SMTPパスワード] フィールド	ユーザのパスワード。
[アドレス] フィールド	ユーザの電子メール アドレス。
[CloupiaサーバIPアドレス] フィールド	Cisco UCS Director 仮想アプライアンスの IP アドレスまたは DNS名。このフィールドは、ユーザのワークフロー処理に対して、電子メールで正しいリンクを作成するために使用します。 [テストメールの送信] チェックボックス:現行の電子メール設定をテストするには、このチェックボックスをオンにします。

### ステップ4 [保存] をクリックします。

# 電子メール テンプレートの使用

Cisco UCS Director には通知メカニズムがあり、VM のプロビジョニングなど、特定のイベントが発生した場合に管理者に送信される電子メールを設定できます。 また、すべてのタスクについて承認が必要な場合には、1 人の管理者、またはグループの管理者へ電子メール通知を送信できます。



(注)

電子メールの通知に対して複数の受信者を指定できます。 カンマを区切り文字として使用して、複数の電子メール アドレスを区切ります。

Cisco UCS Director には、異なるシナリオに対応する、HTML 形式の電子メール テンプレートのセットがあります。電子メールテンプレートを使用して実行できるタスクには、たとえば次のものがあります。

- ・新しい電子メール テンプレートの追加
- 既存の電子メール テンプレートの編集 電子メール テンプレートについて、メッセージの詳細、または書式設定およびプレゼンテーション フィールドを編集できます。 テンプレート内の Java 関連の情報は変更しないでください。
- •電子メール テンプレートのプレビュー 電子メールのコンテンツをプレビュー表示して、電子メール テンプレートをさらに変更するかどうかを判断できます。
- •電子メールテンプレートをデフォルトに設定 デフォルトの電子メールテンプレートに基づいて電子メール通知が送信されるように設定できます。
- •電子メールテンプレートの削除 追加したテンプレートを削除できます。 ただし、次のいずれかの条件にあてはまる場合は、テンプレートを削除することはできません。
  - 。テンプレートを追加してデフォルトのテンプレートに設定した。
  - 。システムによって提供されたテンプレートである。

## 電子メール テンプレートの追加

### 手順

**ステップ1**  $\forall = 1$  メニュー バーで、[管理] > [システム] の順に選択します。

ステップ2 [電子メール テンプレート] タブをクリックします。

ステップ3 [追加](+)をクリックします。

**ステップ4** [テンプレートの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[電子メール テンプレート名] フィールド	電子メール テンプレートの名前。
[テンプレートの説明] フィールド	電子メール テンプレートの説明。
[テンプレートのタイプ] ドロップダウンリスト	追加する電子メールテンプレートのタイプを選択します。 このドロップダウン リストには、システムで生成されたテンプレートが表示されます。
[スクリプト] フィールド	電子メールのコンテンツ、フォントのサイズと 色、通知トリガーなど、電子メールテンプレー トを定義する HTML コード。

名前	説明
[デフォルトにリセット] チェックボックス	このチェックボックスをオンにすると、システムが提供する電子メールテンプレートで使用されているHTMLコードが、[スクリプト]フィールドに入力されます。
	HTMLコードが入力された後で、コードに対する変更を維持するには、このチェックボックスをオフにする必要があります。

### ステップ5 [送信] をクリックします。

### 次の作業

さらに変更を加えるかどうかを判断するには、電子メールテンプレートをプレビューで表示します。

# 電子メール テンプレートのプレビュー

Cisco UCS Director で新しい電子メール テンプレートを作成すると、電子メール コンテンツのプレビューを表示して、さらに変更が必要かどうかを判断できます。

#### 手順

- ステップ1 メニューバーで、[管理]>[システム]の順に選択します。
- ステップ2 [電子メール テンプレート] タブをクリックします。
- ステップ3 テーブルから電子メール テンプレートを選択します。
- ステップ4 [テンプレートのプレビュー] をクリックします。
- ステップ5 [レポートの起動] ダイアログ ボックスで [送信] をクリックします。
  - (注) 電子メール テンプレートのプレビュー モードでは、静的な情報だけが表示されます。 顧客名などの動的な情報やリソースは表示されません。

### 次の作業

必要に応じて、電子メールテンプレートに戻ってさらに変更を加えることができます。

## デフォルトの電子メール テンプレートの設定

通常は、システムテンプレートがデフォルトの電子メールテンプレートに設定されています。 特定のシナリオで複数のテンプレートを追加した場合は、いずれかのテンプレートをデフォルト のテンプレートとして選択できます。デフォルトとして設定したテンプレートは通知に使用され ます。

### 手順

- ステップ1 メニューバーで、[管理]>[システム]の順に選択します。
- ステップ2 [電子メール テンプレート] タブをクリックします。
- **ステップ3** テーブルから電子メール テンプレートを選択します。
- ステップ4 [デフォルトの電子メール テンプレートとして設定] をクリックします。

# システム パラメータの設定(任意)

## システム パラメータの設定

システムパラメータを編集する必要があるのは、デフォルト値を変更する必要がある場合だけです。

- ステップ1 メニューバーで、[管理]>[システム]の順に選択します。
- ステップ2 [システムパラメータ] タブを選択します。
- **ステップ3** [システム] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[削除したVMのデータを保持する日数)]フィールド	ユーザが定義した、システムでVMデータを保 持する日数。
[イベントを保持する日数] フィールド	ユーザが定義した、システムですべてのイベン トを保持する日数。
	(注) 指定された期間よりも古いイベント は削除されます。

名称	説明
[傾向データを保持する日数] フィールド	ユーザが定義した、システムでインベントリの傾向データまたは履歴データ(CPU、ストレージ、メモリ使用状況など)を保持する日数。
	(注) このデータはレポートに使用されま す。
[計測データを保持する日数] ドロップダウンリスト	ユーザが定義した、システムでVM計測レコードを保持する日数。
	(注) このデータは、VMとリソースに固有 です。
[URLからのVMロックコントロールのダウンロード] フィールド	指定された URL からの VM ロック コントロール。
	(注) このファイルはXML形式である必要 があります。
[通貨] ドロップダウン リスト	使用する通貨の種類を選択します。
	使用可能な通貨は、[US]、[EURO]、[GBP]、 [KRW]、[CAD]、[CHF]、[CLP]、[NR]、[JPY]、 [AUD]、[NZD]、[SGD]、[HKD]、[MYR]、 [MXN]、[BRL]、[AED]、[DKK]、[SEK]、 [KWD]、[CYN]、[RUB]、[ZAR]、および[その他] です。
[通貨] フィールド	通貨の名前(1つのみ)を入力します。
	(注) このフィールドは、通貨として[その他]が選択されている場合に表示されます。
[通貨の精度(小数点以下の桁数)] ドロップダウン リスト	通貨の小数点以下の精度を選択します。使用可能な小数点以下の精度は0から5です。
[Funds Availability Check Interval (mins) (資金残高確認間隔(分))] ドロップダウン リスト	資金の残高を確認する間隔を選択します。

### ステップ4 [保存] をクリックします。

## インフラストラクチャ システム パラメータの設定(任意)

仮想および物理システムインフラストラクチャリソースのポーリングに関するパラメータを設定 できます。

### 手順

- ステップ1 メニューバーで、[管理]>[システム]の順に選択します。
- ステップ2 [インフラストラクチャシステムパラメータ] タブを選択します。
- ステップ3 エントリ ボックスに、システム インフラストラクチャのトレンド データを保持する日数を入力します。 デフォルトは 30 日です。
- ステップ4 [保存] をクリックします。

## ライセンスの更新

製品認証キー(PAK)を使用して、ライセンスを更新することができます。

### 手順

- ステップ1 メニューバーで、[管理]>[ライセンス]の順に選択します。
- ステップ2 [ライセンスキー] タブを選択します。

す。

- ステップ3 [ライセンスの更新] オプションをクリックします。 [Update PAK (PAK の更新)] ダイアログボックスが表示されます。
- **ステップ4** [参照] をクリックして PAK ライセンス ファイルにナビゲートし、ファイルを選択します。
- ステップ5 PAK ライセンス ファイルをアップロードするには、[アップロード] をクリックします。
  (注) ライセンス ファイルをアップロードしない場合は、チェックボックスをオンにして、
  ライセンス テキストをライセンス テキスト フィールドにコピー アンド ペーストしま
- ステップ**6** [送信] をクリックします。 ライセンスが更新されます。

# ライセンス使用率の確認

[ライセンス使用率]ページに、使用中のライセンス、および各ライセンスの詳細(ライセンスの期限、使用可能な数、ステータス、コメントなど)が表示されます。 ライセンスの監査もこのページから実行できます。

### 手順

- ステップ1 メニューバーで、[管理]>[ライセンス]の順に選択します。
- ステップ2 [ライセンス使用率] タブを選択します。
- ステップ3 Cisco UCS Director アプライアンスを選択します。
- ステップ4 (任意) ライセンス監査を実行するには、[ライセンス監査の実行] をクリックします。
- ステップ5 [ライセンス監査の実行] ダイアログボックスで、[送信] をクリックします。 このプロセスは、実行に数分かかります。

# ライセンス使用率履歴の表示

ネットワークリソースの利用状況を把握するため、ライセンス取得済みネットワークコントローラ、ストレージコントローラ、サーバ、サーバおよびデスクトップ VM、およびスモールポッドとミディアムポッドの数を時間の経過に伴い追跡できます。

- ステップ1 メニューバーで、[管理]>[ライセンス]の順に選択します。
- ステップ2 [ライセンス使用率履歴] タブを選択します。 次のリソース カテゴリのライセンス使用率履歴がタイムスタンプとともに表示されます。
  - ネットワーク コントローラ
  - ストレージ コントローラ
  - ・サーバ
  - サーバ VM
  - ・デスクトップ VM
  - ・スモール ポッド
  - ・ミディアムポッド

# リソース使用率データの表示

ご使用の環境でのリソースの使用状況を確認できます。

### 手順

ステップ1 メニューバーで、[管理]>[ライセンス]の順に選択します。

ステップ2 [リソース使用率のデータ] タブを選択します。 使用可能なレポート カテゴリを次に示します。

- ・リソース名: Cisco UCS Director に関連付けられている利用可能なリソースの名前。
- ・リソース数:利用可能な各リソースの数。

# アプリケーション カテゴリの編集

Cisco UCS Director を使用してプロビジョニングされた VM はすべて、そのタイプに基づいて分類されます。 VM タイプは、Web サーバ、データベース、アプリケーション サーバ、またはその他です。 Cisco UCS Director には、検出された VM のための別個のカテゴリもあります。

使用または編集できるアプリケーションカテゴリを以下に示します。

- ・検出された VM
- 汎用 VM
- Web サーバ
- アプリケーション サーバ
- データベース
- •アプリケーション CPU 集約型
- •アプリケーション-メモリ集約型
- •アプリケーション ディスク集約型
- ・アプリケーション -ネットワーク集約型
- Other App 1 (その他のアプリケーション 1)
- Other App 2 (その他のアプリケーション 2)
- Other App 3 (その他のアプリケーション 3)

### 手順

- ステップ1 メニューバーで、[管理]>[システム]の順に選択します。
- ステップ2 [アプリケーションカテゴリ] タブを選択します。
- ステップ3 アプリケーション カテゴリを選択します。
- ステップ4 [編集] をクリックします。
- ステップ5 [カテゴリの編集] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[カテゴリID] フィールド(表示専用)	システムによりカテゴリに割り当てられた数値。
[カテゴリラベル] フィールド	カテゴリ タイプ。
[カテゴリコード] フィールド	VM およびホストの名前。
[説明] フィールド(表示専用)	ポリシーの説明。
[有効になっているカテゴリ] チェックボックス (表示専用)	デフォルトではこのチェックボックスはオンに なっています。
[デフォルトのスマート割り当てアルゴリズム] ドロップダウン リスト	アルゴリズムを選択します。

### ステップ6 [送信]をクリックします。

# ポータルのカスタマイズ

組織でセルフサービスポータルをカスタマイズできます。ブランディングおよびユーザインターフェイス関連の変更に対して、ロゴ、ログインページ、ホームページなどをカスタマイズできます。

## ログインページと背景イメージのカスタマイズ

カスタムイメージをアップロードして、ログインページと背景イメージを変更できます。

### 手順

- ステップ1 メニューバーで、[管理]>[ユーザインターフェイス設定]の順に選択します。
- ステップ2 [ログインページ]をクリックします。
- ステップ3 [カスタマイズ可能なログインページの使用] チェックボックスをオンにします。
- ステップ4 [ロゴイメージ] と [背景イメージ) ]ペインで、アイテムを選択するか、または [追加] をクリック してロゴ イメージまたは背景イメージを追加します。
- ステップ5 [送信]をクリックします。

## アプリケーション ロゴのカスタマイズ

カスタムイメージをアップロードしてホームページのアプリケーションロゴをカスタマイズできます。

### 手順

- ステップ1 メニューバーで、[管理]>[ユーザインターフェイス設定]の順に選択します。
- ステップ2 [アプリケーションロゴ] タブを選択します。
- ステップ3 [イメージ] ペインで、イメージを選択するか、または [追加] をクリックしてまだリストにない新しいイメージを追加します。
- ステップ4 [送信] をクリックします。

## ファビコンのカスタマイズ

ページがブックマークされている場合に、ブラウザのアドレスバーやそのページ名の横に表示されるお気に入りアイコン(ファビコン)をカスタマイズできます。

- **ステップ1** メニュー バーで、[管理] > [ユーザインターフェイス設定] の順に選択します。
- ステップ2 [ファビコン] タブを選択します。
- ステップ3 [イメージラベル] 列で、イメージを選択するか、または [追加] をクリックしてまだリストにない 新しいイメージを追加します。
- ステップ4 [送信] をクリックします。

## アプリケーション ヘッダーのカスタマイズ

顧客ロゴの横のセルフサービスポータルラベルをカスタマイズするには、既存のラベルを変更します。

- ステップ1 メニューバーで、[管理]>[ユーザインターフェイス設定]の順に選択します。
- ステップ2 [アプリケーションヘッダー] タブを選択します。
- ステップ3 [アプリケーションヘッダー] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[ヘッダー全体の非表示] チェックボックス	ヘッダーセクションを非表示にするには、この チェックボックスをオンにします。 オンにする と、ロゴイメージ、アプリケーション名、リン ク([Logout(ログアウト)] など)を含むヘッ ダーが非表示になります。
[製品名] フィールド	製品名の続き。
[製品名の2行目] フィールド	製品名の続き。
[[バージョン情報]ダイアログの有効化] チェックボックス	ヘッダーで[バージョン情報] リンクを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。 ヘッダーで [バージョン情報] リンクを無効にするには、このチェックボックスをオフにします。
[管理者ポータル]	
[カスタムリンク1のラベル] フィールド	管理者ポータルのカスタムリンク1のラベル。
[カスタムリンク1のURL] フィールド	管理者ポータルのカスタム リンク 1 の URL。
[カスタムリンク2のラベル] フィールド	管理者ポータルのカスタムリンク2のラベル。
[カスタムリンク2のURL] フィールド	管理者ポータルのカスタム リンク 2 の URL。
エンドユーザ ポータル	
[カスタムリンク1のラベル] フィールド	エンドユーザ ポータルのカスタム リンク 1 の ラベル。

名称	説明
[カスタムリンク1のURL] フィールド	エンドユーザ ポータルのカスタム リンク 1 の URL。
[カスタムリンク2のラベル] フィールド	エンドユーザポータルのカスタム リンク2のラベル。
[カスタムリンク2のURL] フィールド	エンドユーザ ポータルのカスタム リンク 2 の URL。

ステップ4 [保存] をクリックします。

## 日付表示のカスタマイズ

さまざまな日付表示の形式がサポートされています。

### 手順

- ステップ1 メニューバーで、[管理]>[ユーザインターフェイス設定]の順に選択します。
- ステップ2 [日付の表示] タブを選択します。
- ステップ3 日付形式を編集します。
- ステップ4 必要に応じて、[タイムゾーンの非表示]をクリックし、タイムゾーンがユーザインターフェイス に表示されないようにします。
- ステップ5 [保存] をクリックします。

## カラー テーマのカスタマイズ

- ステップ1 メニューバーで、[管理]>[ユーザインターフェイス設定]の順に選択します。
- ステップ2 [カラーテーマ] タブを選択します。
- ステップ3 ドロップダウンリストから使用可能なテーマスタイルを選択します。
- ステップ4 [保存] をクリックします。

## ログアウト時のリダイレクト先のカスタマイズ

### 手順

- ステップ1 メニューバーで、[管理]>[ユーザインターフェイス設定]の順に選択します。
- ステップ2 [Login Redirect (ログイン時のリダイレクト先)]タブを選択します。
- ステップ3 URL を入力します。
- ステップ4 [保存] をクリックします。

# レポートのカスタマイズ

レポートのカスタマイズでは、カスタム ラベルを作成したり、使用可能なレポートを非表示にしたりできます。

### 手順

- ステップ1 メニューバーで、[管理]>[ユーザインターフェイス設定]の順に選択します。
- ステップ2 [レポートのカスタマイズ] タブを選択します。
- **ステップ3** レポートを選択します。
- ステップ4 [編集] をクリックします。
- ステップ5 ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[レポートを非表示] チェックボックス	レポートを非表示にするには、このチェック ボックスをオンにします。 レポートを表示する には、このチェックボックスをオフにします。
[新しいラベル] フィールド	レポートの新しいラベル(必要な場合)。

### ステップ6 [保存] をクリックします。

# 高度な制御

Cisco UCS Director の特定のプロパティを有効または無効にするには、高度な制御を使用します。

## 詳細な制御の有効化

### 手順

ステップ1 メニューバーで、[管理]>[システム]の順に選択します。

ステップ2 [詳細な制御] タブを選択します。

ステップ3 次の手順を実行します。

名称	説明
[Monitoring (モニタリング)] チェックボックス	仮想インフラストラクチャのモニタリング、物理インフラストラクチャのモニタリング、および外部クラウドのモニタリングを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。 必要に応じて、このカテゴリのチェックボックスをすべてオンにします。
[Resource Metering(リソースメーター)] チェックボックス	<ul><li>VMメーター機能のモニタリングを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。</li><li>(注) VMメーター機能が無効になっている場合、チャージバックは作動しません。</li></ul>
[Event Monitoring (イベントのモニタリング)] チェックボックス	仮想および物理インフラストラクチャのイベントを有効にするには、このチェックボックスを オンにします。
[Heat Map Report Computing (ヒートマップ レポートコンピューティング)] チェックボックス	仮想インフラストラクチャのヒート マップ レポートの生成を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。
[Automatic Assessment(自動評価)] チェック ボックス	仮想評価のレポートを生成するには、この チェックボックスをオンにします。

名称	説明
[Adaptive Provisioning Indexing(適応プロビジョニング インデックス)] チェックボックス	さまざまなホストパラメータについてホストの ロードインデックスを有効にし、4時間ごとに 計算するには、このチェックボックスをオンに します。
	これらのインデックスは、カタログの適応プロビジョニングで使用されます。インデックスの数が小さいと、ホストがプロビジョニング対象として選択される可能性が高くなります。このプロセスは、特定のVDCのコンピューティングポリシーに従って機能します。
[Delete Inactive VM's Based on VDC Policy (VDC ポリシーに基づいて非アクティブな VM を削除)] チェックボックス	管理者が指定した時間が経過した後、VDCの非アクティブな(電源がオフになっている)VMを有効化して削除するには、このチェックボックスをオンにします。このプロパティは、VDCの[非アクティブなVMを削除するまでの期間]フィールドに関連付けられます。
	( <b>注</b> ) デフォルトでは、このプロパティ ボックスはオフになっています。
[System Task Remoting(システム タスクのリモート実行)] チェックボックス	管理のためにリモート実行を有効にするには、 このチェックボックスをオンにします。
[Enable Service Provider Feature (Requires System Restart)(サービス プロバイダー機能の有効化(システムの再起動が必要))] チェックボックス	Cisco UCS Director でサービス プロバイダーを 有効にするには、このチェックボックスをオン にします。

### ステップ4 [送信] をクリックします。

# ユーザ メニュー

一般的なユーザのロールで使用できるデフォルトのメニュー操作のほかに、個々のユーザロール に対してカスタマイズされたメニュー操作を許可できます。



(注)

使用できるメニュー設定はユーザ権限によって異なります。 たとえば読み取りおよび書き込み権限が付与されている場合にのみ、メニューの操作を表示または実行できます。

## ユーザ メニューの設定

#### 手順

- ステップ1 メニューバーで、[管理]>[システム]の順に選択します。
- ステップ2 [メニュー設定] タブを選択します。
- ステップ3 ドロップダウン リストから、ユーザ ロールを選択します。
- **ステップ4** チェックボックスをオン/オフにしてロールに対するメニューの許可を設定するか、[デフォルトに リセット] チェックボックスをオンにします。
- ステップ5 [送信]をクリックします。

# ユーザ権限の設定

### 手順

- ステップ1 メニューバーで、[管理]>[システム]の順に選択します。
- ステップ2 [ユーザの権限] タブを選択します。
- ステップ3 ドロップダウン リストから、ユーザロールを選択します。
- ステップ4 [許可されている操作] ダイアログボックスで、選択したユーザロールの読み取り/書き込み操作を確認できます。
- ステップ5 チェックボックスをオン/オフにして個々のロールの読み取り/書き込み操作の許可を設定するか、 [デフォルトにリセット] チェックボックスをオンにします。
- ステップ6 [送信] をクリックします。

## システム タスクの管理

マルチノード セットアップでは、どのサービス ノードがどのシステム タスクを実行するかを定義します。

データ収集などのシステムタスクの処理はVMのサービスノードに委ねることができます。ノードの数はタスクを処理する規模によって異なります。



(注)

すべてのリモート VM のノードに Cisco UCS Director をインストールし、それらの VM のノードをマルチノード セットアップ用に設定してください。 詳細については、Cisco UCS Director のインストールとアップグレードのガイドを参照してください。

## ノード プールの作成

### 手順

- ステップ1 メニューバーで、[管理]>[システム]の順に選択します。
- ステップ2 [サービスノード] タブを選択します。
- ステップ3 [サービスノードプール] アイコンをクリックします。 [サービスノードプール] ダイアログボック スが表示されます。
- ステップ4 + (正符号) アイコンをクリックします。 [サービスノードプールにエントリを追加] ダイアログ ボックスが表示されます。
- **ステップ5** [名前] フィールドに、ノード プール名を入力します。
- ステップ6 (任意)[説明]フィールドに、ノードプール名の説明を入力します。
- ステップ1 [送信]をクリックします。 ノードプールが作成されます。

## システム タスク ポリシーの作成

複数のシステム タスクを1つのシステム タスク ポリシーとしてグループ化して、どのシステム タスクがどのノードで実行されるかを後で決定できます。



(注)

新しいシステム タスク ポリシーは、デフォルトのシステム タスク ポリシーに加えて、1 つ以上のポリシーが必要であると管理者が判断したときに作成されます。

### 手順

- ステップ1 メニューバーで、[管理]>[システム]の順に選択します。
- ステップ2 [システムタスクポリシー] タブを選択します。
- ステップ3 [追加] アイコンをクリックします。 [追加] ダイアログ ボックスが表示されます。
- ステップ4 [名前] フィールドに、システム タスク ポリシーに指定する名前を入力します。
- **ステップ5** (任意) [説明] フィールドに、システム タスク ポリシーの説明を入力します。
- **ステップ6** [ノードプール] ドロップダウン リストから、このシステム タスク ポリシーが属するノード プールを選択します。
- **ステップ7** [送信]をクリックします。選択したノードプールは、新しく作成されたシステムタスクポリシーに属するようになりました。

## システム ポリシー タスクへのノード プールの割り当て

- ステップ1 メニューバーで、[管理]>[システム]の順に選択します。
- ステップ2 [システムタスクポリシー] タブを選択します。
- ステップ3 既存のシステム タスク ポリシーを [名前] 列から選択して、[編集] アイコンをクリックします。 [編集] ダイアログボックスが表示されます。
  - (注) デフォルトのシステム タスク ポリシーが使用されている場合、このポリシーにサービス ノードを割り当てることができます。 デフォルトとは異なるポリシーを設定する場合は、システム タスク ポリシーの作成、(18ページ)の項を参照してください。
- **ステップ4** このシステム タスク ポリシーが属するノード プールを [ノードプール] ドロップダウン リストから選択します。
- ステップ5 [送信]をクリックします。選択したノードプールは、このシステムタスクのポリシーに属することになります。

# サービス ノードの作成

### 手順

ステップ1 メニューバーで、[管理]>[システム]の順に選択します。

ステップ2 [サービスノード] タブを選択します。

ステップ3 [追加] (+) ボタンをクリックします。

ステップ4 [サービスノード] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[ノード名] フィールド	サービスノードの名前を入力します。
[ロール] フィールド	サービスはこのノードのロールとして記述され ます。
[サービスノードプール] ドロップダウンリスト	[default-service-node-pool] が選択されています。
[DNS名] フィールド	サービス ノードの DNS 名または IP アドレスを 入力します。 (注) このフィールドには、プライマリ ノードの IP アドレスは使用できませ ん。 有効なサービス ノード DNS 名 または IP アドレスが入力されている ことを確認します。
[説明] フィールド	サービスノードの説明。
[プロトコル] ドロップダウン リスト	[http](デフォルト)または[https]を選択します。
[ポート] フィールド	Hypertext Transfer Protocol (HTTP) のデフォルトの TCP ポートは、デフォルトでは 80 が入力されます。 必要に応じて異なる TCP ポートを入力します。

名称	説明
[ユーザ名] フィールド	デフォルトでは、ユーザ名 infraUser が入力されます。 infraUser は、デフォルトで作成されるユーザ アカウントです。 メニュー バーからこのユーザ アカウントを検索するには、[管理] > [ユーザとグループ] を選択します。 [ログインユーザ] タブを選択し、[ログイン名] 列でinfraUser ユーザ アカウントを見つけます。
	(注) InfraUser ユーザ名は UCS Director システム自体にログインするデフォルトの管理者ユーザではありません。別のユーザ名をこのフィールドに追加できます。サービスノードでの認証に、このユーザのAPIキーが使用されます。

ステップ5 [送信]をクリックします。

## システム タスクへのシステム ポリシーの割り当て

- ステップ1 メニューバーで、[管理]>[システム]の順に選択します。
- ステップ2 [システムタスク] タブを選択します。
- **ステップ3** システムタスクを含むフォルダを選択します。フォルダの矢印をクリックして、タスクを展開します。
  - (注) 128 のシステム タスクが使用可能です。
- ステップ4 タスクを選択し、[タスクの管理] アイコンをクリックします。 [タスクの管理] ダイアログボック スが表示されます。
- ステップ5 [Task Execution (タスク実行)] ドロップダウン リストから [有効化] を選択します。
- ステップ6 [システムタスクポリシー] ドロップダウン リストからシステム ポリシーを選択します。
- ステップ7 [送信]をクリックします。 選択したシステム ポリシーにシステム タスクが割り当てられます。

## システム タスクの実行

### 手順

- ステップ1 メニューバーで、[管理]>[システム]の順に選択します。
- ステップ2 [システムタスク] タブを選択します。
- **ステップ3** リストからタスクを選択します。
- ステップ4 [今すぐ実行]をクリックします。 選択されたタスクによってその情報が更新されます。

## システム タスクの無効化

### 手順

- ステップ1 メニューバーで、[管理]>[システム]の順に選択します。
- ステップ2 [システムタスク] タブを選択します。
- **ステップ3** システムタスクを含むフォルダを選択します。フォルダの矢印をクリックして、タスクを展開します。
  - (注) 128 のシステム タスクが使用可能です。
- ステップ4 タスクを選択し、[タスクの管理] アイコンをクリックします。 [タスクの管理] ダイアログボック スが表示されます。
- ステップ5 [Task Execution (タスク実行)] ドロップダウン リストから [無効化] を選択します。
- ステップ6 [送信] をクリックします。

## アイコンの管理

Cisco UCS Director は、カタログアイコンのカスタマイズと管理をサポートします。 各アイコンセットには多くのイメージが含まれます。 各アイコンセット内のイメージはカタログ作成フォームで使用できるアイコンに対応しています。

- 4組の事前設定されたアイコンセットは次のとおりです。
  - ・コンテナ カタログ アイコン セット
  - 高度なカタログ アイコン セット
  - ・標準カタログ アイコン セット

• VDI カタログ アイコン セット

## アイコンの追加

- ステップ1 メニューバーで、[管理]>[ユーザインターフェイス設定]の順に選択します。
- ステップ2 [アイコン管理] タブを選択します。
- ステップ3 アイコンセットカテゴリを選択します。
- ステップ4 [アイコンイメージ] をクリックします。
- ステップ5 [アイコンイメージの管理] ウィンドウで、[追加] (+) をクリックします。
- ステップ6 [アイコンイメージへのエントリの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[イメージラベル] フィールド	イメージの新しいラベル。 このラベルは、カタログの作成中にアイコンのドロップダウンリストに表示するために使用されます。
[説明] フィールド	イメージの説明。
[アップロードするファイルの選択] フィールド	参照してアップロードするファイル。

## アイコンの編集

### 手順

- ステップ1 メニューバーで、[管理]>[ユーザインターフェイス設定]の順に選択します。
- ステップ2 [アイコン管理] タブを選択します。
- ステップ3 アイコンのカテゴリを選択します。
- **ステップ4** [アイコンイメージ] をクリックします。
- **ステップ5** [アイコンイメージの管理] ウィンドウで、編集するアイコン イメージを選択します。
- ステップ6 [編集] (鉛筆) をクリックします。
- ステップ7 [アイコンイメージエントリの編集] ダイアログボックスで、[説明] を編集します。
- ステップ8 [参照]をクリックしてイメージを参照し、アップロードする代わりのファイルを選択します。
- **ステップ9** [アップロード] をクリックします。
- ステップ10 アップロードが終了したら、[送信]をクリックします。

### アイコンの削除

- ステップ1 メニューバーで、[管理]>[ユーザインターフェイス設定]の順に選択します。
- ステップ2 [アイコン管理] タブを選択します。
- ステップ3 [アイコンイメージの管理] ウィンドウでアイコンのイメージを選択し、[削除] アイコンをクリックします。
- ステップ4 [削除](X) をクリックします。

## アイコンのプレビュー

### 手順

- ステップ1 メニューバーで、[管理]>[ユーザインターフェイス設定]の順に選択します。
- ステップ2 [アイコン管理] タブを選択します。
- **ステップ3** [アイコンイメージ] をクリックします。
- ステップ4 [アイコンイメージの管理] ウィンドウで、プレビューするアイコン イメージを選択します。
- ステップ5 [情報] アイコンをクリックしてイメージをプレビューします。

# サポート情報

Cisco UCS Director サポートは、ライセンス ステータス、データベース テーブル、バージョン、リソース使用状況、ログ、トラブルシューティング用のデバッグ プロセスを含む、基本および高度なシステム情報を提供します。

## サポート情報の表示

### 手順

- ステップ1 メニューバーで、[管理]>[サポート情報]の順に選択します。
- ステップ2 [System Information (システム情報)] タブを選択します。
- **ステップ3** [System Information and Logs Link Page(システム情報およびログ リンク ページ)] リンクをクリックします。 Cisco UCS Director の [Product System Information(製品システム情報)] ウィンドウが表示されます。

### システム情報の表示

基本システム情報には、バージョン、稼動時間、サービス ステータス、システム ライセンス ステータス、使用状況、計算アカウント ステータス、計算サーバ ステータス、ストレージ アカウント ステータス、システム カタログ、ネットワーク デバイス ステータス、およびクラウド ステータスが含まれます。

高度なシステム情報には、基本システム情報、データベーステーブルサマリー、製品構成、最上位プロセス情報、およびプロセッサ、メモリ、ディスク、ログファイル、ネットワーク、ログイ

ンに関する情報が含まれます。 システム タスク ステータス、クラウド インベントリ、およびモニタリング ステータスを表示することもできます。

### ログの表示

ドロップダウンリストからログファイルの1つを選択できます。 [Show Log (ログの表示)]をクリックすると、ログの最後の数行が表示されます。

### ログのダウンロード

[Download All Logs (すべてのログのダウンロード)] をクリックして、すべてのログファイルを Zip 形式でダウンロードできます。

### デバッグ ログの開始

デバッグ ログでは、最大で30分間のデバッグ ログをログ ファイルに記録できます。

- ステップ1 [Start Debug Logging (デバッグ ログの開始)]をクリックします。
- ステップ2 デバッグが完了したら、[Stop Debug Logging (デバッグ ログを停止)]をクリックします。
- ステップ**3** ファイルをダウンロードするには、[HH.MM.SS (HH.MM.SS)] (時間) から、[Download Debug Logs (デバッグ ログのダウンロード)] をクリックします。